

チリ 学校閉鎖でテレビ授業に

新型コロナウイルスの感染拡大によって全土の学校が閉鎖されている南米チリで、筑波大が手がけた算数の教科書の内容が、テレビの遠隔授業で教えられている。楽しみながら数学の考え方を身につけられるよう工夫しているのが特徴で、日本の教育現場で培われた指導法が地球の裏側の家庭学習で役に立っている。

教科書を手がけたのは、教育開発国際協力研究センター長をつとめる磯田正美教授。磯田教授によると、チリ教育省から依頼を受けて、2019年から現地の研究者らと作業を始めた。小学1年生から6年生までの算数の教科書をスペイン語でつくる計画だが、これ

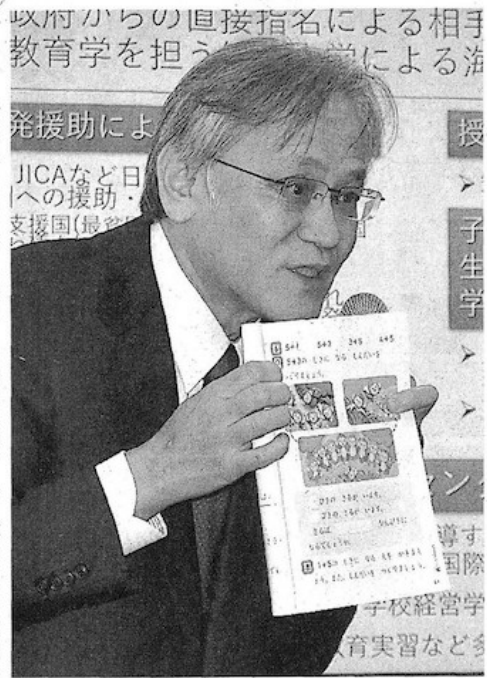
まで1、2年生向けが完成。今年3月から約43万人が使っている。

新型コロナ



筑波大が開発した算数の教科書の内容を紹介するチリのテレビ番組「ユーチューブから

筑波大の学び 地球の裏側へ



教科書について説明する磯田教授。つくば市の筑波大

磯田教授 教科書作成「算数、楽しんで」

OECD（経済協力開発機構）が18年に調査した「生徒の学習到達度調査」によると、チリの数学分野の順位は78カ国中59位（日本は6位）。算数の教科書は従来、ドリル形式で問題をひたすら解かせるような内容だったといい、磯田教授らは遊びの要素を採り入れた問題や自らつくりだせる形をとったりと内容を改善した。筑波大付属小の教師たちが実地で試行錯誤してきた指導法の成果を反映したものだという。

ところが教科書を使い始めた矢先、新型コロナウイルスの感染が拡大し、3月中旬に学校が全面閉鎖に。その後、政府の主導で公共テレビ放送を通じた遠隔授業が行われることが急ぎよ決まり、磯田教授が手がけた教科書の内容が使われることになった。1、2年生それぞれについて5分の番組を週5日放送している。番組放送後は動画配信サイトのユーチューブに投稿され、ネットですべて視聴できるようにするという。磯田教授は「楽しく学べる内容はテレビ授業にもマッチするはず。日本の教師が培った教育法が世界で評価されたことは光栄です」と話している。（庄司直樹）